

六つの華だより

糸魚川市立磯部小学校
平成 26 年 2 月 10 日(月)No.16
E-mail isobesho@itoigawa.ne.jp
URL <http://www.itoigawa.ed.jp/isobesho/>



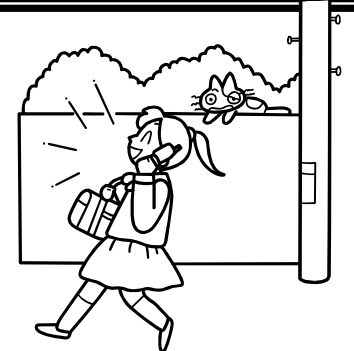
自分の言葉で伝えよう みんな笑顔になろう 元気な体をつくろう

新しいコミュニケーションの形？

校長
高橋雅史

どこにでもありそうな日常の風景かもしれませんが、少し気になる出来事がありました。

妻とある店にラーメンを食べに行った時のことです。私たちの隣のテーブル席に 5 人の家族連れが後から来て座りました。おじいちゃん、おばあちゃん、お母さんの大人 3 人と中学生、高校生ぐらいのお嬢さんが 2 人です。



聞き耳を立てていたわけではないのですが、注文し、しばらくの間ラーメンを待ち、運ばれて来て食べ終わるまで、隣の大人 3 人と 2 人のお嬢さんの間には、会話がまったくありませんでした。なぜなら、2 人の眼はスマホの画面にずっと釘付けで、指は忙しそうに画面の上を動き続けていたからです。

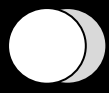
2 人は椅子に反っくり返り、ガムを噛み、足を前に投げ出してスマホをやり続けていました。私に聞こえた 2 人の言葉は、「ワタシ、ミソ」「ワタシは、シオ」だけでした。そして、ラーメンを食べている最中も 2 人ともスマホをやめることはありませんでした。まったく見ず知らずの人たちのこと、別に悪気もなく、誰にも迷惑もかけていないようにも思われる行動です。ですから、むしろ気にする方がおかしいのかもしれない。

こういったスマホや携帯電話でのメールの“やりとり”の仕方が新しいコミュニケーションの形なのかもしれません。しかし、最近はメールの返事を待つためにスマホを片時も自分の側から離せない「メール依存症」の若者が爆発的に増えているのも現実だそうです。

若い頃に先輩から、「大切な話は電話ではなく、必ず会って、顔と顔を合わせてしなさい」と助言されました(もちろんメールなどない時代のことです)。上司からは、「電話をする時は、相手が迷惑な時間でないかを考えてしなさい」と指導を受けました。親からは、「相手の目を見て話をしなさい」と口を酸っぱくして言われました。

コミュニケーションとは、そういうふうにするものだと思いますが、歳を重ねてきた私にとっては、目の前にいる家族や友だちよりもスマホが大切という心理は理解しにくいものです。

まさか、隣のテーブルの家族の在り方を注意するわけにもいきませんが、似たような事が自分の勤める学校であれば、烈火のごとく怒り出したかもしれません。私は、「家族の中の誰かが注意すればいいのに」と思いながら店を出てしまいました。



作文(ちらし)紹介

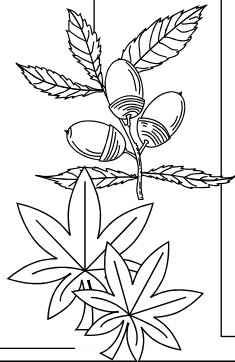


1年生が国語の「おみせやさんごっこ」で書いた“ちらし”を紹介します。1年生は、生活科で作ったいろいろなものでお店を開きます。この“ちらし”は、たくさんの人たちからお店に来てもらえるように作ったものです。入学してからもうすぐ1年、言葉をたくさん覚え、読みやすい文が書けるようになりました。

「おちばのおみせ」
木じま はるか
おちばでつくった、はか
きやしおり、コースターが
あります。
おすすめは、しおりとコ
ースターです。
しおりは、ほしのビーズ
をつけました。つけたらと
てもきれいになりました。
コースターは、たいらにな

「木のいたのおみせ」
青田 虎輝
かざりものやバッジな
どがあります。かざりもの
のしゅるいは、どうぶつや
ケーキなどです。
おすすめは、バッジとか
ざりものです。
バッジは、あんぜんピン
をガムテープでつけるの
がたいへんでした。
かざりものでは、いえの
えんとつにけむりをつけ
ました。すごくいえらしく
なりました。
ケーキはクリームとイ
チゴのかわりに、赤い木の
みとちやいろの木のみを
つかいました。
ぜひきてください。

「まつぼっくりのおみせ」
いいよし ひめ
まつぼっくりのブレス
レットやどうぶつやクリ
スマスツリーがあります。
クリスマスツリーは、ポ
ンドで、ハートやちようの
ビーズをつけました。モー
ルをまいてきれいにしま
した。まつぼっくりにいろ
をつけるのが、とてもたい
へんでした。
ブレスレットは、まつぼ
っくりをちいさくしてか
ざりにしてみました。
ぜひかいにきてくださ
い。



校長室から

手作りのよさ



1年生は生活科の学習で、木の実や木の葉、小枝などを使って素敵なものをたくさん作りました。木の葉を封じ込んだ葉書や葉、松ぼっくりのぶたさん、小枝のうさぎさん……。どれもかわいらしく工夫したものばかりです。作る時には、上越教育大学の木下先生や藤崎の竹田さんからも手伝ってもらいました。

国語で書いた“ちらし”は、自分たちのお店で2年生やお家の方々に買ってもらうために作ったものです。もちろん、本当のお金で売り買いするわけではありませんが、一生懸命作っただけに、お客様にはできるだけたくさん来てもらいたいものです。そのために、工夫したことやよくできたところを思い出しながら一生懸命に書いていました。

現代は、工夫して手作りする必要がない、物が身の回りに溢れている時代です。それだけに、この学習活動を見ながら、あらためて、自分の手で何かを作ることがいかに大切かということを感じ取ることができました。